

2022 年 3 月 30 日
シチズン時計株式会社

中期経営計画説明会 主な質疑応答（要旨）

日時 : 2022 年 3 月 30 日（水）15 時 30 分～16 時 30 分
当社出席者 : 代表取締役社長 佐藤敏彦、
取締役 古川敏之、取締役 中島圭一、取締役 大治良高

主な質疑応答 :

【全体】

Q) 株主還元方針について。

A) 「中期経営計画 2024」では、「成長・合理化投資」「財務体質強化」とのバランスを考慮し、また安定的かつ継続的な配当を重視し、配当性向 50%を目安とした。自社株買いは、目標値は定めず、状況に応じて機動的に判断する。

【時計事業】

Q) 時計事業の成長イメージについて。単価上昇と数量増とどちらのウェイトが大きくなる見通しか。

A) 時計市場において数量全体は横ばいないし漸減傾向にあるため、単価上昇による成長を目指していく。グローバルブランドや、プレミアムブランドを強化することで引き上げを図る。国内市場は『The CITIZEN』の強化を図っており、単価を強く引き上げていきたい。北米市場も平均単価が伸びており、国内、北米を中心に単価を引き上げるイメージ。

Q) コロナ禍からの回復をどの程度織り込んでいるのか。

A) 完全にコロナ前の状態に戻るとは考えていない。コロナ禍においてはインバウンド需要の消失が大きく影響しており、2024 年度のインバウンド需要はピーク時の 7 割程度の回復を見込んでいる。インバウンド需要以外はほぼ戻ると見ている。グローバルで『PROMASER』や『CITIZEN L』を強化し、ポジションをあげていきたい。

Q) グローバルブランドとして展開する『PROMASER』、『CITIZEN L』の価格帯イメージは。

A) 『PROMASER』はラグジュアリースポーツの流行もあり、世界的に成長余地がある。
『CITIZEN L』はサステナブル、エシカルなど製品コンセプトが時代にマッチしている。
\$400 以上から上限は幅広いレンジで考えている。『PROMASER』は多機能な製品もあり
\$1,000 を超えるものもある。

【工作機械事業】

Q) 工作機械事業は循環サイクルがある。次の3年間はどのようなアップダウンを描いているのか。

A) 工作機械事業はシクリカルな影響が大きい。今回の受注の上昇基調は急激な立ち上がりとなっている。通常4年周期の循環と言われていたが、現在の動きを見ていると今までの循環サイクルに基づいた予想が相応しいか判断しきれない。

Q) LFV（低周波振動切削）技術について。ここまでどのように業績寄与してきたのか。また、今後の戦略は。

A) 発売から10年以上の技術。当初は振動をさせるということでお客さまも疑心暗鬼だった。国内市場から販売をスタートし、部品加工が正しくできること、製品にダメージがないということを証明してきた。無人で24時間稼働が可能。欧州市場においても省力化、省人化ニーズの高まりを受け拡大。アジア市場もまだ割合は低いものの、台湾で好調。今後も搭載機種を増やし、他社との差別化を出していきたい。単価上昇にも寄与している。

以 上